

飯豊内ノ倉川 文八沢 (秋の沢集中)

2004年9月18日〜20日

上佐藤仁昭、吉田晴夫、菊地重幸 (記)

9月18日(晴れ)

前夜、ダムサイトで仮眠するが、睡眠不足で起きるのが辛い。石幹沢までは歩道を辿り少し石幹沢を下降して本流に入渓する。両岸ともに見渡す限り高い壁が続き高巻きは容易でなさそう。暫くゴルジュ内の川原を進みカーブを抜けると逆層スラブの20m滝が現れる。綺麗な滝で見入ってしまうが、登れそうに無いので左岸から巻き、続くゴルジュ内の滝も登れそうに無いのでまとめて大高巻きとなる。5m滝の上に降り立ちゴルジュを行くと釜や淵が続き泳ぎやヘツリで越えて行くが淵は土砂で埋まってしまったのか、意外と浅い所が多かった。

右に大滝沢を見送りゴルジュに入ると、沢幅狭まり水流が強く途中まで進んだが、先の2m滝付近は物凄い勢い。右岸の方が楽に巻けそうだが沢を戻るのが大変なので、左岸からザイル使用で巻く事にした。ハング下のバンド状のトラバースからザイルは垂直の壁に延びていた。佐藤さん、よくこんな所リードで行くなーと関心しながら登るが、この高巻きで腕をかなり消耗した。懸垂20mで沢床に戻り、先の20mの淵は胸まで浸かりながら歩いて通過。

左から五匹穴沢が流入すると沢が開け明るくなるが、それも束の間再びゴルジュとなり2m滝下は水流強く側壁に取り付けず左岸から巻いた

がかなり立っていて悪かった。

ゴルジュを抜けると暫く穏やかな溪相となり一気に一ノ倉沢まで行くが、高巻きで時間を食い時間は既に15時だ。少し行くと薄暗いゴルジュが出てきて滝が連なっている。右岸のルンゼから巻いたが中間部はホールドが細かく緊張した。沢床に戻り10分程で北俣沢に到着し20m位入った左岸の樽通り快適な高台にツエルトを張る。川原で夕飯を食べ焚き火をしていると20時頃から雨が降り出しツエルトに避難する。雨脚強まり雷も鳴っているが、高台のお陰で雨も気にならず熟睡。

9月19日(雨後曇り)

前夜の雨は上がり水量は平常時に戻っていた。少し進むと釜が現れ朝から泳ぐ羽目になるが佐藤さんは絶妙なフリクションでヘツる。釜を抜けると川原状になり右から又八沢が流れ込む。本流は150m程先からゴルジュとなり、側壁はかなり高く大高巻きになりそう。何処から巻こうかルートを探していると雨が降り出し水が濁り出す。

このまま本流を遡行すると集中時間に間に合いそうに無いので、流程の短い又八沢にエスケープする事にした。この沢は事前情報が何も無くどんな沢か分からない未知の沢で期待と不安が入り混じる。出合の小滝を越えるとトイ状3m滝の右壁を細かいホールドで越えると先の2m滝を右から巻くとスズメバチの巣があり刺激しない様に通過。670m付近で二俣となり右俣に入ると20m位の滝が目前に迫る。雨による増水で迫り力も増し、右岸の尾根を巻く事にした。高巻き中下を見ると大きな滝が更に幾つも続き長い高巻きとなる。高巻きにウンザリする頃大クワガタに会う。雨にも負けず逞しく生きている姿を見て元気を分けてもらった。

沢床の滝が小振りになったのでクライムタウンで10滝の上に降りると、目前には3滝が控えている。滑り易い右壁をザイルを出して越える。更に登っても登っても休む間も無く滝が延々と続くが、登攀に強い佐藤さんが微かな弱点を見出し越えて行く。途中の15滝は取り付きがツルツルで右のルンゼから巻いたが上部は急傾斜でホールド細かく脆く緊張する。

980mで二俣となり水量の少ない左俣に入ると側壁は低く沢は明るくなり心にも余裕が生まれる。その後は穏やかな溪相が続ぎ、上部はフイナールを飾るにふさわしい沢床が苔生した花崗岩のトイ状で、自然がもたらす造形の素晴らしさを感じながらフリクションで登って行く。最後はザレ斜面になり14時35分西ノ峰東側の尾根に出る。

踏まれているが、藪が覆い被さる夏道を2時間程で赤津山手前の口ポット雨量計の在る平らな場所に着きツエルトを張る。18時の交信で胎内パーティと連絡が取れ金沢の800m付近に居る事が分かり安心するが他のパーティとは連絡取れず就寝。空には星が輝いていた。 9月20日(晴れ)

赤津山まで徒歩3分の所に居るので遅くまで寝ているが段々ツエルト内が暑くなり寝ても居られない。夕プだけ残しのんびり景色を眺めたり昼寝などしていると10時半頃、金井さんの元気な声が聞こえ、暫くして赤津山に胎内を遡行して来た3人が現れる。皆充実感がみなぎっている。お茶でもご馳走したい所だが前日から尾根に上がっている我々は水が乏しくそれも出来ない。その後12時チョット過ぎに夏道から上がって来たメンバーと合流し、12時30分頃皆で下山する。

今回、初めて集中山行に参加したが山頂にあちこちから集つと言つ行為の楽しさを実感出来た。また今回入った又八沢は名前からしてス力沢っぽいイメージがあつたが入つて見て滝滝の連続で十分過ぎる程遡行価値の在る沢だつた。メンバーに感謝。

9月18日

内ノ倉林道口(6:30) 石幹沢出合(8:25) 8:50 (五匹六沢) 2:40 (二ノ倉沢) 5:10 15:20 (北俣川出合) 7:05

9月19日

北俣川出合(6:40) 670m二俣(8:10) 980m二俣(12:55) 西ノ峰稜線(14:35) 赤津山(16:20)

9月20日

赤津山(12:25) 登山口(15:35) 加治川ダム(17:20) 地形図 上赤谷・二王子岳